

日本英文学会関東支部 第24回大会（2024年度夏季大会） プログラム

日時：2024年6月16日（日）
会場・開催校：明治大学 駿河台キャンパス
〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

アクセス方法

- JR 中央線・総武線／御茶ノ水駅（駅番号：JC03・JB18）下車徒歩約3分
- 東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅（駅番号：M20）下車徒歩約3分
- 東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅（駅番号：C12）下車徒歩約5分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅（駅番号：I10・S06・Z07）下車徒歩約5分

日本英文学会関東支部事務局

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂1-2
研究社英語センタービル
Tel/Fax 03-5261-1922
E-mail: kanto@elsj.org

12:00

開場・受付開始
(受付：11階、控室：10階1104教室、書店展示：11階1115教室)

| | | |
|---|--|---|
| <p>12:30 + 12:50</p> | <p style="text-align: center;">総会 11階 1116 教室</p> | |
| | <p style="text-align: center;">第1室 11階 1114 教室</p> | <p style="text-align: center;">第2室 11階 1116 教室</p> |
| <p>研究発表 1</p> <p>13:00 13:40</p> | <p>'Grotta Byron' or Byron's cave: the emblem of Byron's Italy</p> <p style="text-align: center;">(発表者) 木村 真理子</p> <p style="text-align: center;">(司会者) 伊藤 健一郎</p> | <p>Shakespeare's Roman Plays in Fitzgerald's <i>The Beautiful & Damned</i></p> <p style="text-align: center;">(発表者) Mauro Lo Dico</p> <p style="text-align: center;">(司会者) 千代田 夏夫</p> |
| <p>研究発表 2</p> <p>13:50 14:30</p> | <p>「見ること」と「言うこと」——サミュエル・ベケットにおける「光」と「言語」</p> <p style="text-align: center;">(発表者) 川島 知也</p> <p style="text-align: center;">(司会者) 対馬 美千子</p> | <p style="text-align: center;">開催なし</p> |

| | | | |
|--|---|---|---|
| <p>部門別 シンポジウム</p> <p>14:40 16:40</p> | <p>【シンポジウム 1】 イギリス文学部門 11 階 1113 教室</p> <p>小説と印象——ハーデー、ジェイムズ、フォード</p> <p>(司会・講師) 川本 玲子 (講師) 金谷 益道 (講師) 垂井 泰子</p> | <p>【シンポジウム 2】 アメリカ文学部門 11 階 1114 教室</p> <p>ホイットマンと／の現在</p> <p>(司会・講師) 富山 英俊 (講師) 梶原 照子 (講師) 川崎 浩太郎</p> | <p>【シンポジウム 3】 英語学・英語教育部門 11 階 1116 教室</p> <p>英語教員は英語の授業で何してる？</p> <p>(司会・講師) 水口 小百合 (講師) 関戸 冬彦 (講師) 北脇 実千代</p> |
| <p>懇親会 (17:15-19:15 ※要事前予約) 会場：カフェ パンセ 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-3-3 アカデミーコモン 1 階 TEL: 03-3296-4622 HP: https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html</p> <p>※ 懇親会の詳細については、本プログラム最終ページをご参照ください</p> | | | |

開場・受付開始 (12:00 より 11 階にて)

13:00-13:40 【研究発表 1】

第 1 室 (11 階 1114 教室)

(発表者) 東京大学大学院博士課程 木村 真理子
(司会) 早稲田大学講師 伊藤 健一郎

'Grotta Byron' or Byron's cave: the emblem of Byron's Italy

This paper explores Lord Byron's ambivalent relationship with Italy, focusing on the motif of caves in his works. 'Grotta Byron' located in Italy may direct our attention to the grottoes depicted by Byron himself. The caves of *The Bride of Abydos* (1813), *Don Juan* (1819-24), and *The Island* (1823), for example, primarily serve as redemptive asylums for the protagonists while also harboring the potential to be their final resting places. Such duality does indeed characterize Byron's Italy, his own place of refuge. The country not merely provided him with security and comfort; it also posed risk and danger to the expatriate poet, ultimately constituting a milieu fraught with an irreconcilable dialectic between life and death. Through a careful inspection of the representations of the caves in Byron's work—a theme rarely featured previously—, this study elucidates Byron's complex reception of his adopted country.

第2室 (11階 1116教室)

(発表者) 日本大学准教授 Mauro Lo Dico
(司会者) 鹿児島大学准教授 千代田 夏夫

Shakespeare's Roman Plays in Fitzgerald's *The Beautiful & Damned*

Scholars firmly locate *The Beautiful & Damned* in the canon of American literary decadence. Yet, despite F. Scott Fitzgerald's love for William Shakespeare and the Western tradition of describing decadent behavior in ancient Roman terms, there are merely two brief mentions made by critics about the connection between the Bard's Roman plays and the novel. *Antony & Cleopatra*, for instance, has become a representative text about the danger of succumbing to over-indulgence, and so it is no stretch to claim that *The Beautiful and Damned* is Fitzgerald's version of the tragedy, to which he often alludes when satirizing the excesses of the 1920s. Throughout the novel can be found constant references not only to this play but to *Julius Caesar* and other episodes of Roman history as well, in its characters, settings, structure, and theme. All these literary devices are employed by Fitzgerald to critique the overall degeneracy that would eventually lead the United States into the Great Depression.

13:50-14:30 【研究発表 2】

第1室 (11階 1114教室)

(発表者) 東京大学大学院博士課程 川島 知也
(司会) 筑波大学教授 対馬 美千子

「見ること」と「言うこと」——サミュエル・ベケットにおける「光」と「言語」

本発表では、絵画について論じたサミュエル・ベケットのテキスト（「ヴァン・ヴェルデ兄弟の絵画——または世界とズボン——」（1945）「障害の画家」（1948）「三つの対話」（1949））を紐解き、ベケットの芸術論を検討したうえで、それを文学の問題系へと接続することを目指す。「三つの対話」のなかでベケットが論じている「表象するもの」と「表象されるもの」の「関係」（の不在）を、文学における言表と可視性の「関係」に結びつけて考えたい。ベケットの芸術論を「表象するもの」と「表象されるもの」、「話すこと」と「見ること」、言表と可視性の観点から読み解き、その射程を再考する。ベケットの芸術論が——後の作品のタイトル『見ちがい言いちがい』（1979）にも表れているような——「見ること」、「言うこと」の不可能性、あるいは「見ちがうこと」、「言いちがうこと」の可能性の問題系へと連なることを明らかにする。「言いちがい」、「見ちがう」ことによって、「言うこと」と「見ること」の「関係」を書きかえること、それこそがベケットの芸術における「失敗」の試みではないだろうか。

【部門別シンポジウム】 14:40-16:40

<シンポジウム 1：イギリス文学部門> 11 階 1113 教室

(司会・講師) 一橋大学教授 川本 玲子
(講師) 同志社大学教授 金谷 益道
(講師) 中央大学准教授 垂井 泰子

小説と印象——ハーディ、ジェイムズ、フォード

小説という媒体が 19 世紀的リアリズムに抵抗し、新しい主題と表現方法を求めてたどった革新と実験の軌跡は、ひと足先に絵画において旋風を巻き起こしていた<印象>への強い関心を抜きには語れない。多義性と矛盾をはらむ<印象>という概念は、文学的印象主義の明確な定義を困難にするが、その反面(あるいは、だからこそ)、題材と手法の手を尽くし、混沌とした生の経験そのものを描こうとする小説の試みに、豊かな可能性をもたらしたのではないか。本シンポジウムでは、三人の作家とその作品を通じて、小説における<印象>のありかたを考えたい。

トマス・ハーディと現象としての印象

金谷 益道

本発表では、19 世紀イギリス文壇における小説の創作方針を巡る議論の中で、「印象(impression)」がどのように用いられてきたのかについて、特にトマス・ハーディに焦点を当てながら究明する。19 世紀のイギリス小説批評界のクリシェの一つは、実証主義的精神に対する関心の高まりなどの影響により増大していった小説中の「描写(description)」を批判することであった。ハーディは、視覚などの肉体的感覚で捉えられるものの詳細な描写の増大を、プロット進行を遅滞させ小説の構造を台無しにするだけでなく、表象における主観性の役割の周縁化をもたらすものとして批判した。この発表では、ハーディが、どのように主観的知覚を印象と結び合わせながら表象の源泉を主観的知覚に求めようとしたのか、彼が記したカント的な「現象」に関するメモを一つの手がかりにして考察したい。

ヘンリー・ジェイムズ、印象、短編小説

垂井 泰子

ヘンリー・ジェイムズ(1843-1916)は、1884 年の評論「小説の技法」で、“A novel is in its broadest definition a personal, a direct impression of life.”と述べ、作家自身が現実世界で受けた強い印象をもとに現実そのものを描くものが小説だと主張した。そして作家は登場人物が受けた強い印象を描くことで読者に物語の現実感を与える。

『金色の盃』(*The Golden Bowl*, 1904) などジェイムズの後期の長編小説では、印象は人物の心に深く刻まれ、その人物が繰り返し思い出し、次の思考や行動につながるものであり、プロットを動かす中心的な役割を果たす。では、ジェイムズの初期の短編小説では印象はどう描かれていたのだろうか。ジェイムズの最も初期の印象主義の形を検証するために、本発表では彼の最初の作品

「間違いの悲劇」(“A Tragedy of Error,” 1864) を取り上げる。また、印象を描く媒体として短編小説は適切であるかどうかという問題も考えたい。

フォード・マドックス・フォードと人物の印象

川本 玲子

フォード・マドックス・フォードが「印象主義について」やその他の文章で解説した小説の手法と主題は、彼の代表作『善き兵士』と『パレーズ・エンド』において、それぞれ異なる形で実践されている。これらの作品の中核にあるのは、同一の人物が他者に与える複数の異なる印象とそれら相互の間のズレであるが、時間や場面の唐突な移動や複数の視点の並置といった語りの工夫によって玉虫色に変化する人物たちの印象に、読者はしばしば翻弄される。本発表ではフォードの印象主義論と上記の作品を手がかりに、フォードが考える「小説の役割」について考察し、またジェイムズやジーン・リース、ヘミングウェイの小説や回想録に登場するフォード(らしき人物)の印象についても言及したい。

<シンポジウム 2: アメリカ文学部門> 11 階 1114 教室

(司会・講師) 明治学院大学名誉教授 富山 英俊
(講師) 明治大学教授 梶原 照子
(講師) 駒澤大学教授 川崎 浩太郎

ホイットマンと／の現在

Whitman は当然ながら文学史上の巨大な存在として、種々の文脈で読まれ参照され続けているが、本シンポジウムは、近年におけるその状況の展望(一端ではあれ)を目指す。川崎は、Negri/Hardt のいう現代の<帝国>状況のもと、ホイットマンによる合衆国のデモクラシーの例外性／国際性の主張がどう受容されているかを探る。梶原は、詩人における sympathy の主題の表出とその問題性を、歴史的にまた現代の理論的知見との関連で検討する。富山は、Harold Bloom による評価や選詩集編纂を手がかりに、詩人の宗教性(キリスト教との関係など)や性愛表出の特異性を、テキスト細部の解釈との関係であらためて考察する。

21 世紀のホイットマン: 『<帝国>』・9/11 からトランプ政権まで

川崎 浩太郎

本発表では 2000 年以降を「現在」と捉え、Antonio Negri と Michael Hardt の『帝国』三部作を補助線として参照しつつ、三つの視座から現代的コンテクストにおける Whitman 受容の変化を辿りたい。まず、『<帝国>』出版から 9/11 を経てトランプ政権誕生にいたる社会情勢の変化が、『草の葉』におけるグローバリズムやデモクラシーの主題に関する読みをどのように変えたかを概観する。さらに、<帝国>の一角を占めるグローバル企業が、テレビコマーシャルのなかで引用する『草の葉』の詩行が、どのようにその販売戦略に寄り添いつつ、同時にそこから逸脱するかについても

検証する。最後に、情報がネットワーク化された<帝国>において、現代の散文作品が『草の葉』にどのような現代的価値を見いだしているかを確認する。世紀転換期から早くも四半世紀が目前に迫った今、あらためて『草の葉』の現代的意義について広く概観してみるのが本発表の目的である。

21 世紀に読み直すホイットマンの sympathy

梶原 照子

Walt Whitman は “I am he attesting sympathy” と宣言し、*Leaves of Grass* (1855) の話者 “I” の精神と振舞いを sympathy で特徴づけた。それゆえ、*Studies in American Literature* (1923) において D. H. Lawrence が辛辣に批評したのもホイットマンの sympathy であった。ロレンスは、ホイットマンが「共感」をキリスト教の「愛」と混同し、他者への憐憫と「没入」に陥ったと非難した。他者の個別性を尊重したロレンスの観点は、20 世紀末にレヴィナスの他者性に依拠した批評において、同一性の詩人批判として反復された。しかしながら、Jane Bennett が *Influx and Efflux* (2020) で論じるように、ホイットマンの描く sympathy はアダム・スミス流の近代的な「道徳的な感情」を超えた「人間以上の大気の力」という物質的な流動であった。近代的な個人の内面から外に流出し、間主観的な関係性において成立するホイットマンの sympathy は、図らずも今世紀の知見を先取りする。例えば *Touching Feeling* (2003) で情動理論に影響を与えた Eve Kosofsky Sedgwick が、1996 年にホイットマンと母ルイーザの言葉と欲望の共有に魅了されていたことも示唆的だ。本発表ではホイットマンの sympathy を 19、20、21 世紀の視点から読み直してみたい。

ホイットマンを「いま読む」——Harold Bloom を参照しつつ

富山 英俊

批評家 Harold Bloom はロマン派復権を唱えた初期、特異な「影響の不安」説を論じた中期、「西洋の正典」の擁護者を称した後期を通じて、Whitman に特権的地位を与え続けた。この発表では、後期の論評や選詩集の編纂（The Library of America 版 *Selected Poems* での草稿の重視など）に焦点を当てつつ、それらを手がかりに、“Song of Myself” ほかの詩篇でのキリスト像の出現、通念的な霊肉二元論との関連での Self/Soul/Body の関係、肉体的・性愛的なものの表出の特質をあらためて取り上げたい。その際は、詩句の肝要な箇所の意味解釈（の異同）も、詩人を「いま読む」ことの重要な要素であり続けるだろう。

<シンポジウム 3：英語学・英語教育部門> 11 階 1116 教室

(司会・講師) 江戸川大学講師 水口 小百合
(講師) 白鷗大学教授 関戸 冬彦
(講師) 日本大学教授 北脇 実千代

英語教員は英語の授業で何してる？

大学の英語教員は、授業を実際どのように行なっているのでしょうか。隣の教室でどのように授

業が行われているのか気になったことがある先生方は、ぜひこのシンポジウムに参加してみてください。今回のシンポジウムでは、教室での実際の授業を疑似体験していただきます。オーディエンスの皆さまには適宜ペアやグループになってもらい、講師陣からの問いについてディスカッションを行ってまいります。講師陣はサンプルとしての実践例を提示しつつ、オーディエンスの皆さまを含めた活発なディスカッションの場を作っていきます。

教えると学ぶは何が違う？

関戸 冬彦

「教える」と「学ぶ」は同じでしょうか？と聞かれたら何と答えますか？僕は「違う」と答えたいですね。というのも、主語が違います。「教える」のは教員、「学ぶ」のは学習者だからです。もちろん、学習者同士が「教える」、教員たちが「学ぶ」ということもありえますけれども。かつてバーナード・ショーは「もし人になにかを教えようとすれば、彼は何も学ばないだろう」と言ったそうです。では英語の教員は英語の授業で何をすればよいのでしょうか？どうやったら学習者は英語を学んでくれるのでしょうか？この点について、様々な視点、論点から切り込んでみたいですね。さあ、To join this symposium or not, that is a question.

英語の授業で何が学べる？

北脇 実千代

人工知能 (AI) が急速に発達したいま、学生は何のために英語を学ぶのでしょうか？英語が好きでたまらない学生、英語圏の文化に興味がある学生にとっては、英語を学ぶことへの動機付けは比較的容易なはずです。ネイティブ話者との直接的なコミュニケーションも想定しつつ、YouTube や語学学習アプリ等を利用して、自律的な学習も積極的に行えることでしょう。しかしながら、私たちが教員として関わる学生たちは、皆そうとは限りません。英語が必要な場合は AI 翻訳・通訳に頼れるような世の中で、学ぶ動機が見いだせず、必修科目だからという消極的な理由から履修している学生もいます。そのような学生に対し、英語教員は英語の授業で何ができるのでしょうか？シンポジウムを通して、皆さまと考えていけたらと思います。

授業の失敗から英語教員は何を学ぶ？

水口 小百合

同じ授業計画のもと授業を行うと、「うまくいったクラスの授業」もあれば、「うまくいかなかったクラスの授業」もあります。その違いは何なのでしょう。学生と教員の関係性、クラスの雰囲気、学生のその時の集中力、授業の時間帯やスケジュール、さらにはその日の天気の原因ということもあるかもしれません。さまざまな要因が絡み合っているので、毎回の反省に対する原因説明はなかなか難しいでしょう。

今回は、発表者の授業の失敗事例を切り口として、「うまくいかなかった授業」が一体どのようなものなのか、考えてみたいと思います。授業の導入であるウォーミングアップ活動における成功と失敗のチャート図を作成し、「うまくいかなかった授業」が、外的な要因だけでなく、教員の教育観などに関わっているかどうかを検証します。オーディエンスの皆さまと多様な教育観や実践例の共有をしていきます。

会場アクセスマップ



アクセス方法

- JR 中央線・総武線／御茶ノ水駅（駅番号：JC03・JB18）下車徒歩約 3 分
- 東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅（駅番号：M20）下車徒歩約 3 分
- 東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅（駅番号：C12）下車徒歩約 5 分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅（駅番号：I10・S06・Z07）下車徒歩約 5 分

懇親会について (17:15-19:15)

会場：カフェ パンセ 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-3-3 アカデミーコモン 1 階
TEL: 03-3296-4622

HP: https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html

会費：5,500 円 ※ご出席の場合、以下の URL または QR コードにて事前にご予約のうえ、会費は事前振り込みにて承ります（受付は Web アンケート申込先着順といたします）。

予約用 URL: <https://forms.office.com/r/LrVipWb57d>

※予約は 6 月 10 日（月）締切、事前振込は 6 月 13 日（木）締切



予約用 QR コード